

## 第2回木更津市学校給食費検討委員会会議録

日 時 平成28年6月22日（水曜日）14時から15時30分

場 所 木更津市役所朝日庁舎 会議室F

出席者氏名

検討委員

東清小学校長：渡邊文男 波岡中学校長：武田重雄

木更津市PTA連絡協議会：白石和義、鈴木志乃、関隆行、谷口美江、鶴岡俊之

金田小学校栄養教諭：坂井幸栄 高柳小学校栄養士：林明香

事務局

学校給食課長：岡田正浩

学校給食課：地曳美千代、山之上幸

議題及び非公開の別

議題（1）学校給食費改定事務局（案）について 公開

（2）学校給食費改定事務局（案）についての意見交換 公開

### 1. 開会（14：05分開始）

（白石副会長）

それでは、ただいまより第2回木更津市学校給食費検討委員会を開会いたします。渡邊会長が遅れておりますので、私が議事を進行させていただきます。ただいまの出席人数は8名です。過半数に達しておりますので、木更津市学校給食費検討委員会条例第6条2項の規定により会議は成立しております。なお、遅刻の届出は、渡邊会長1名です。池田委員はまだ連絡がついておりませんが、検討委員会を進めさせていただきます。

また、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定により、会議は公開で行います。傍聴人が2名おりますので、ご承知おきください。

また、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第6条の規定により会議録を作成し、公開いたします。

それでは、まず私より一言ごあいさつさせていただきます。委員の皆様におかれましては、公私共にご多忙の中、本委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。前回の検討委員会では熱心にご討議いただき、いろいろな意見が出されました。本日の会議では、次第のとおり給食費改定の事務局（案）が示されることとなっています。十分ご協議いただく

ことをお願いし、私からのあいさついたします。

### (1) 学校給食費改定事務局（案）について

(白石副会長)

議題1.「学校給食費改定事務局（案）について」を議題に供します。それでは事務局から説明をお願いいたします。岡田課長お願いいたします。

(事務局：岡田課長)

本日はお忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。次第に基づいて、事務局案を提示させていただきます。

学校給食費は、前回の検討委員会で諮問させていただいたとおり、小中学校の給食費の適正な額等についてご協議をいただき、その中でいろいろなご意見をいただきましたことを御礼申し上げます。前回の会議録についてはお手元の資料のとおりでございます。また、本市のホームページにて会議録を公開しておりますことを申し添えます。

今回は教育委員会としての立場を踏まえて、事務局案を提示させていただきます。

まず、事務局案としては値上げが望ましいと考えます。値上げ幅の考え方につきましては後ほどご説明いたします。

次に給食の回数ですが、現状と同じ191回が望ましいと考えます。理由として、現在給食回数を191回と規則で定め実施しておりますが、これは各校の実績を捉えたところ概ね190回前後であったため、これより増減させる理由はございません。

次に、給食費に差を設けるかという条件についての検討ですが、千葉県北部の市町村では、小学校低学年・中学年・高学年で給食費の金額が異なっている場合があります。これは児童の給食摂取量に応じ細かく設定しているためです。また、給食センターと単独校で給食費に差を設けている自治体もございます。本市も給食センター方式、単独方式、親子方式と3形態の給食提供方式で実施しております。市内の形態が全て給食センターであれば、食材の仕入れの部分で金銭的に有利であるといえます。しかしながら、単独校では子どもたちが勉強に励んでいるすぐ側に給食室があり、給食を作っているときの食欲をそそる匂いや雰囲気を感じることができ、給食を作っている栄養士や調理員との会話ができたりといった利点があります。これは食育の推進という面ではとても有意義なことですし、給食センターのような一括の献立作成や食材購入をしていないために、小回りが利くという利点もございます。このようなことから、他市で採用しているような学年の分類で給食費を設定したり、センター給食と単独・親子給食で差を設けるというのは大変理想的ではありません。しかしながら、本市では既に児童生徒分の給食費を1食ごとに個別に計算し、細かなシステムにおいて運営をしている状況でございます。これよりも複雑な徴収方法の実施は人間的な面でも大変に厳しいものがございます。また、現在の3形態の給食提供方式を継続していくという市の方針がある中で、安心安全な給食を提供するという上では、第2給食センターの建設も必要ではないかと現課で検討をしている状況です。そういった中で将来的なことを見

据えたとき、給食費に差を設けることでかえって市民の皆様に迷惑をかける部分があると考えられますので、現在の統一の給食費を崩さずに実施して参りたいと考えております。

値上げの理由については、資料で記しているとおりに平成20年度より金額が据え置かれていること、また平成26年の4月に消費税が5%から8%へ増額改定したこと、またその当時は、平成28年10月には消費税を10%へ増額するという見込みで進んでおりました。その中で、5%から8%へ上げた時点と、8%から10%へ上げる時点での2段階で給食費の値上げを行うことは、行政的な方針としては非常に好ましくないため、当時の現場の栄養士の方々に意向を諮ったところ、消費税8%の中ではなんとかやりくりしていきます、という回答を得ました。それと同時に2年後に消費税が10%になったときには給食費の改定を見据えていくという方針となりました。しかしながら、今年度になって消費税10%への増額改定は平成31年の10月まで延期されました。現場の栄養士の方々は、現在も大変厳しい状況で献立のやりくりをされています。

改定の金額については、事務局案の資料をご覧ください。現行1食あたり小学校253円、中学校305円で実施しており、栄養士による給食費の算定結果では、小学校289.19円、中学校352.46円という結果になりました。この金額であれば、栄養を考慮した十分な給食を作れるという算定結果となっております。また、物価上昇を考慮した結果では、総務省が算出している数値を用い、総合指数3.6%を使用すると、小学校269円、中学校324円となります。食料品指数7.2%を用いると、小学校278円、中学校335円という結果となります。米、パン、牛乳の基本食材からみた算定結果では小学校275円、中学校330円という結果となります。また、単純に消費税が5%から8%へ増額改定した分の3%分を計算すると、小学校260円、中学校313円となります。

数字で算出するとこのような状況となりますが、保護者のアンケート調査を見ると、給食費の額が適当であると回答した割合は75.7%となっています。また、前回の検討委員会では保護者代表のPTAの皆様の声として、値上げするのであれば条件付きでお願いしたいという話がありました。また栄養士の先生方の立場としては、献立作成において栄養価を保つのに大変苦勞しているとの話もありました。これらのことを踏まえて、給食課の中の事務局案としては値上げが望ましいと考えました。

値上げ幅の算出については、事務局案の資料として先ほどの金額を掲げておりますので、その中で委員の皆様のお考えをお聞かせ願いたいと考えております。

また、行政としては近隣市の状況も考慮しなければなりませんので、近隣の給食費金額についても記載しております。現在、君津市は小学校260円、中学校310円、富津市は265円、中学校328円、袖ヶ浦市は小学校222円（1食あたり18円の補助金あり。市負担240円）、中学校264円（1食あたり21円の補助金あり。市負担285円）となっています。

値上げすることでの効果及び期待としては、食育の更なる推進を行うということで、地産地消により一層取組み、給食の残菜を減らす取組みを進めていきたいと考えます。前回の

検討委員会の中では、残菜を減らす取組みができれば金額が高くなっても良いという意見、品数が増えるのであれば金額改定しても良いという意見、金額を変えるのであればしっかりと栄養の摂れる献立にしてほしいとの意見がありましたので、このことについて更なる推進をしていきたいと考えております。また、献立のバリエーションを増やすということで、出来る限りデザート等の品数を増やしていきたいと考えております。

消費税増税の対応については、約3年後に改定予定となっておりますので、その時の状況をよく見極めてから、再度検討してまいりたいと思います。

参考として、前回の会議の中で米の品種にはこだわらないというご意見、また一般財源の中からの補助金があったら望ましいというご意見をいただきました。これらのご意見は、最終的には答申の中で申し述べていただければと思います。説明は以上でございます。

(白石副会長)

説明は終わりました。

## (2) 学校給食費改定事務局(案)の意見交換

(白石副会長)

それでは資料に基づいて、意見交換をしたいと思います。事務局案は1から6までの項目があります。1の値上げが望ましいという案について、皆様のご意見を順番に伺いたいと思います。

(鈴木委員)

実際に消費税も材料費も上がっているのに、値上げしても良いと思いますが、金額を上げるからには、皆さんが納得するような、子どもたちが残さず全部食べられるような給食であれば良いと思います。値上げに対して保護者の立場として意見を述べると、栄養と美味しさ楽しさがある給食になると良いです。また子どもたちの学校生活の中で、給食が一番の楽しみとなってくれば値上げにも納得します。

また、その値上げが児童手当のように市の補助があればなおさら有り難いです。気づかないうちに払われているようなシステムだと良いと思います。

(白石副会長)

ありがとうございました。市の補助に関する現状はいかがでしょうか。

(事務局：岡田課長)

はい。補助金につきましては後ほどお話をさせていただきます。

(谷口委員)

1つ質問があるのですが、資料に記載されている値上げの効果期待には、献立を増やすとあります。前回の検討委員会では品数を増やすと器の数が増えるので、食器を消毒保管する保管庫が足りなくなるというお話がありました。その点はどうなるのでしょうか。

(事務局：地曳副主幹)

お答えいたします。施設には限りがあり、現在の各学校の食器収納状況には空きがありま

せんので、食器の数を増やすのは不可能です。資料記載の献立のバリエーションを増やすとあるのは、保護者アンケートの結果で魚料理の頻度が少ないというご意見がありました。また日々の献立作成では、金額のやりくりが厳しくなっているために肉類の使用部位が限られたり、野菜を地域のものを使いたくてもなかなか使えないところがあるので、そういった部分で金額を上げたあとに改善できるのではないかと考えております。

(事務局：岡田課長)

いま、地曳総括が申し上げたとおりですが、献立のバリエーションについては、今までに提供していなかったもの等も栄養士の方々に工夫して取り入れてもらえたらと考えております。品数を増やすというのは、金額の上げ幅が少なければそれだけ難しいところもありますが、デザートや頻度を増やすなどの努力をしていただければと考えております。

(谷口委員)

分かりました。ありがとうございます。

(関委員)

値上げに関しては仕方がないと思います。その中で食育についてどのような工夫ができるのか考えると、残菜に関して言えば、周りの子どもたちに聞くとスコッチエッグのような料理が残ると聞いたことがあります。その日はみんなががっかりしてしまうようで、好かれていない料理が度々出てきてしまうのはやはりもったいないと思います。

また、自身でパントマイムや小芝居をやることのあるのですが、子どもたちに響く表現だったり、なぜその栄養素が必要なのかということを堅苦しくなく面白おかしくインプットしてあげると、頭に入りやすいと思うし先生もやりやすいのではと思います。例えば、自分自身はセロリが苦手でしたが、病気をしたときに病院の看護婦さんに勧められてセロリが食べられるようになりました。そのようなきっかけがあれば、苦手なものを食べられる子どもは多いと思うのです。値上げをするのであれば、低学年で食べられなかったものが高学年でも嫌いなままではなく、克服できるような、そんな食育に対する力を高めていけたらと思います。道徳の授業等を活用しても良いと思いますが、そういったことを訴えかけていきたいです。

(事務局：地曳副主幹)

いま食育の話をしていただきましたが、木更津市でも食育の授業を実施することを指導されています。各学校では栄養士の業務が忙しいこともあり、その合間を縫って担任の先生と力を合わせて行っております。

自分自身の例を挙げると、栄養士として学校に勤務していたときにセロリを題材にして授業を行ったことがありました。授業を行ったクラスで最も嫌いな食品がセロリで、その日のカレーライスにセロリを忍ばせて提供したところ、子どもたちは残さず食べてくれ、実はセロリが入っていることを教えると、とても驚いていました。その授業からしばらく経ったあとにPTA役員の保護者の方から、セロリ嫌いの子どもがセロリを食べられるようになったと伝えてくれたことがありました。各学校ではそのような形で指導しているところで

すがまだまだ行き届かない部分もありますので、今後も更に力を入れていきたいと栄養士も考えております。

(坂井委員)

値上げをするならば、食品の選択肢も広がり、外国産ではなく国産を選ぶことができ、安心安全な給食の提供が今よりもできるので良いことだと思うのですが、それと同時に値上げたのにこれなのか、という目があることを覚悟しなければいけないと思っています。

また、デザートが少ないとよく言われるのですが、デザートの回数を増やすと、逆に言えばデザートのために値上げたのか、とも言われかねないと思います。本来はそうではないですし、栄養士としては、値上げにより産地についても地元産のものを入れたいと考えていて、例えば、国産の生インゲンには食感も香りも外国産のものとは違いますし、先日給食で袖ヶ浦市産のインゲンをソテーで出すと、教職員でも生インゲンだと気づきますし、子どもたちも普段はインゲンが嫌いで食べなくても学校で夏野菜の栽培をしていたり、5年生ではインゲンの苗を植えていたりするので、そこで今が旬の袖ヶ浦市産のインゲンだよと言うと、食べてみようという気持ちにもなってくれます。このような食材を使用すると、栄養士としても子どもたちへ声かけがしやすいので、値上げをするのであれば、より素材をPRしやすい状況にしていきたいと思います。

また、食育については先ほど関委員がおっしゃったように、内容が固い授業だと、子どもたちの頭に入りにくく食育の効果は薄いので、やはり教材や媒体を工夫して使用すると食いつきも良く、理解しやすかったりします。

ここ何年かで食育が世間で取沙汰されていて、話題にのぼることが多くなってきましたので、私たちもそのブームに遅れをとらないように展開していかなければいけないと感じています。

(林委員)

献立のバリエーションではないのですが、肉の部位によっては手が出せないことがよくありますし、豚肉のしょうが焼きは1枚のお肉で出したいと思っても、金額的に厳しいので小間肉を炒めて提供したりしています。魚も安い価格帯の鰯や鮭等を使用したりしていて、ブリは高くて使えないからイナダにしたりなどのやりくりをしています。食材選択の幅が狭められてしまっていますので、そういった意味ではもう少し選択の幅を増やせばよいと思います。

(白石副会長)

ありがとうございました。では次に鶴岡委員、お願いいたします。

(鶴岡委員)

給食は3食のうちのたかが1食かもしれませんが、食べたものが子どもたちの体を作っているということを考えたときに、最も大切なのが栄養士の先生方が日々考えてくださっている食材や、その栄養素だと思います。資料に記載されているような献立のバリエーションや品数を増やすことも楽しく食事をするうえでは良いのかもしれませんが、むしろ栄養

士の先生方が子どもたちのことを考え、大手を振って栄養たっぷりの食事を提供してくれるということのほうに期待したいと思っています。

例えば、肉ではなく魚とか、パンではなく米だとか、最近ではよく言われることではありますが、これだけ食文化が欧米化している中で、親の世代で給食の揚げパンやミルクがあるだけ楽しかったのは、家庭で朝食と夕飯が和食を中心としたものが多かったからではないかと思います。以前は家庭でそのような栄養価が高いものを食べさせてもらっていたから、当時の給食で稀に出るジャンクフード的な食品が楽しかったのではないのでしょうか。それが最近では、家庭においても24時間食べたいものが手に入る時代だし、中学生ではお小遣いでなんでも買うことができます。であれば、給食のときだけでも子どもたちのために栄養価の高いものを提供してほしい、そのように思います。そうは言っても、残菜を減らす努力はしていかななくてはいけないので、そのためのアプローチは必要だと思います。

個人的な意見ですが、献立のバリエーションを増やしたり品数を増やすのは、値上げのハードルを上げてしまっているのではないかと感じます。むしろ給食が美味しくない等の批判を浴びても、長期的な目で見て子どもたちの体のことを考えているのだということをはっきりいえるような給食であってほしいです。

(武田委員)

値上げは望ましいだろうと思います。30数年ずっと給食にお世話になってきました。食育の話が先ほどから挙がっていますが、自分自身も同意見です。子どもたちの実情を見ると、家庭に帰ると孤食の児童生徒がとても多いです。そういう姿を目の当たりにしていると、給食はやはりいいなと思います。

今日の献立はひじきでしたが、昔のひじきの味付けとは違っていて子どもたちの口に合うように食べやすく調理してくれています。子どもたちは11時半くらいになると、給食の展示をしている透明なプラスチックケースを必ず見に行きます。中学校も給食をととても楽しみにしています。

また、今の子どもたちはしっかり3食食べていると思いますか。実は、朝食を抜いて、夜も親に叱られたりして夕食を抜いて校長室にやってくる子がいます。食べることは生きていくうえで基本的なことです。そういった意味でも給食は大切です。

給食費は上げていただいて構いませんし、皆さんから出た意見を全部吸い上げることも難しいのかもしれませんが、給食を本当に楽しみにしている子は多いのだということを知っていただいたうえで、それなりの金額にしていきたいと思います。

また、月に1回の献立表だけでは給食の良さは分かりにくいと思うので、もし給食のデータ等があったり、配膳室の前などに今日の給食はこうです、と示せる何かがあれば、もっと給食に興味を持ってくれるのではないかと思います。

(関委員)

武田委員の意見に賛成です。今はタブレットも普及していますので、そういうものを活用し給食を作っている側と子どもたちを繋げられれば良いのではないかと思います。

(鈴木委員)

生産者と調理をしている人と献立を考えている人、それぞれの努力があってこの給食が出来ているのだと子どもたちにPRするのはすごく良いことだと思います。また、給食コンテストみたいな、子どもたちが考えた献立を給食に取り入れる取組みなども、給食に対してもっと興味を持ってもらうためには良いのではないのでしょうか。

(白石副会長)

皆さん、いろいろなご意見ありがとうございました。皆様のご意見をまとめると、値上げは賛成ということでした。それともう一点は、給食の食材や栄養、それから作っている方々について、もっと発信していくということだと思います。

また、残菜が多く残るという問題点は、なぜこの食材が体にとって必要なのかを栄養士や先生方が説明していくことが大切だと思います。よく、キャンプで出されたものは残さず食べたりしますので、作っている人の顔が見えればもっと違ってくるのではと思います。

では、給食の回数やその他の条件にご意見のある方はいらっしゃいますか。

(武田委員)

給食の回数について補足をさせていただきますと、学校の授業日数が最低200日と定められています。ここに給食のない入学式や卒業式や運動会や文化祭等を考慮して計算すると、年間191回となりますので、実情を正確に捉えていると思います。

(白石副会長)

ありがとうございました。給食費に小学校低学年、中学年、高学年で差を設けないということに意見がある方はいらっしゃいますか。〈意義なし〉

また、単独校と、給食センターの給食費に差は設けないということに意見がある方はいらっしゃいますか。〈異議なし〉

では、食材の価格は多少給食センターと単独校で異なっているようですが、引き続き現在の方法で安全な食材を使用していただくということによろしいかと思います。

(事務局：岡田課長)

ありがとうございます。それでは次に値上げ幅についてのご意見をお聞かせいただきたいと思います。本来であれば事務局で金額を提示すべきなのですが、事務局案の資料をご覧ください、今現在お感じになっている率直なご意見をいただければ大変有り難く思います。

何をどう発言していただいても結構ですので、参考にさせていただいた上で次回の答申案はそれを含めてお出ししたいと思います。

(白石副会長)

はい。それでは事務局(案)資料として、大きく分けて6項目の金額が提示してあります。

(事務局：岡田課長)

それぞれ、このような算出方法ではこの金額になる、というものを示してあります。また近隣市の状況を載せている理由として、木更津市だけが給食センターと単独給食校、親子給食校という3形態あります。袖ヶ浦市ではセンター1施設のみという状況ですので、その分



価格が安くできるという形態の違いはあるのですが、隣接している市ということで保護者の皆様にご負担していただいている金額は、3市をよく考慮していかなければならないという考えに基づいています。

(白石副会長)

前回は説明していただきましたが、今後の3市の動向について、教えていただきたいと思っています。

(事務局：山之上栄養士)

近隣3市の動向について、富津市は改定の意向はありません。君津市は、改定の見込みは未定とのことです。袖ヶ浦市は、今年度の補助金額が減額しておりますが、消費税の増税によっては改定を検討するというので、状況は君津と同じです。

(事務局：岡田課長)

補足をいたしますと、近隣4市だけではなく県内の市町村では、消費税が10%になると苦しくなるので、改定を検討していくという自治体が多くございました。しかしながら消費税増額改定が延期されたという中では、あまり改定の動きはないのではないかと考えます。教育長が得ている情報によっても、県内で今年度給食費の改定を検討しているところはあまり多くないということでした。

給食費が高い富津市は改定しない状況ですし、袖ヶ浦市も財政的に余裕があるので、おそらくそのままではないかと思えます。君津については大きな動きがないので、あまり進んでいないことが予想されます。

(白石副会長)

ありがとうございました。値上げ幅については非常に難しい問題だと思います。

(鶴岡委員)

栄養士による算定結果について、教えていただきしたいと思います。

(事務局：山之上栄養士)

お答えいたします。この金額は、栄養士により昨年度の数字から算出しておりまして、給食で使用している各食材の1kgあたりの単価を調べ、それぞれの食品群ごとの望ましい重量に落とし込み金額を算出しています。この金額は、事務局(案)資料の中で最も学校給食の食材費を反映していると言えます。

ここに載せている金額の補足をさせていただきますと、牛乳・パン・米の主要品目から見た算定結果では、主要品目以外の食材の物価の上昇は算出しておりませんので、栄養士の算定結果より低い数字となっています。また、物価上昇から見た算定結果では平成22年度を基準としていますので、木更津市が給食費を改定した平成20年度からは、2年分の物価上昇が含まれておりませんので、その分も金額が低く算出されている要因と考えられます。

(白石副会長)

ありがとうございます。

(武田委員)

木更津市は小学校253円、中学校305円が現行の金額ですが、やはり形態の多さを考えると、木更津市はよくやっているなと感じます。かつ小学校と中学校の差は木更津市が48円です。ところが君津市は60円、富津63円、袖ヶ浦は45円です。どうしても親子給食をやっていると中学校のほうが量を多くしなければいけないのですが、上げ幅を考えたときに小学校と中学校の差が20円～30円というわけにはいかないでしょうから、そのあたりも加味して考えなければいけないと思います。

(白石副会長)

貴重なご意見ありがとうございます。

載せている金額は消費税が絡んでいる数字だけのものもありますが、この中ではやはり出来るなら栄養士の算定結果である食材1kgあたりで出しているものが、現場で作っている栄養士さんを基準としているので食育のことを考えると良いのではないかという思いもあります。

(関委員)

そうすると、いきなり月額6,000円になると思います。現行からいきなりそうして良いものか、市が補助してくれる部分があるかは分かりませんが、難しいと思います。

(谷口委員)

保護者目線では、目に見える結果が現れないと納得できないのではないかと思いますので、先ほどからでている意見を一人でも多く反映させて示していくのが良いと思います。

(武田委員)

現在の給食費の集金は、小学校で月5,000円、中学校は月6,000円ですが、年10回集金します。そして2月には欠食分を調整するので、そのまま5,000円と6,000円を集金するわけではありません。保護者の立場では、例えば5,500円に増えたときに、保護者はどう感じるか。また小学校で500円上げたら中学校でも同額の500円を上げるというわけにはいかないと思うので、そのバランスも難しいと思います。

(谷口委員)

子どもが八幡台小学校から波岡中学校へ上がり、給食の差が目で見えてわかるかといったら、保護者には分かりません。どれだけの量が中学校で増えているのか、子どもに聞いてみるとご飯の量が増えているとは言っていましたが、実際どう増えたのか分かっていないのに、金額は上がっています。そのような状況ですし、兄弟のいる家庭ではいきなり値段が上がると大変になると思います。

(坂井委員)

1食あたりどれくらい量が増えたのかというのは目に見えづらい部分がありますし、保護者には更に分かりにくいと思います。

先週金田小学校では、保護者の方を対象に試食会を行いました。参加してくださった方の8割は、給食が懐かしくて食べにきたという理由でしたが、1割は給食の量を知りたくてき

たという方々でした。牛乳などは1パックあたり200ccで全国共通サイズですが、ご飯やパンは小学校でも量が3段階になっていて、中学生は更に増えますので全部で4段階になります。おかずの量もなかなか子どもには伝わりにくいのですが、小学校が2個ずつついていたものが中学校で3個ずつに増えていたりします。そういうことは、伝わりにくいからこそ栄養士がもっとPRしていかなければいけないと感じています。また試食会等に来てくれる方はもともと関心がある方なので、そうではない人に対してはどうやって伝えるか。それについては、やはり子どもたちに教えていくことで、それが家庭にも伝わっていくというのが理想だし、これからの課題です。

(白石副会長)

給食センターでは、木更津PTA連絡協議会で試食できると思うのですが、一般の人たちも同じように食べられるものなのでしょうか。

(事務局：岡田課長)

やはり準備が必要なので、事前に予約が必要です。本来はもっと先の話になるのですが、食育の部分で学校給食レストラン的なものができるようになれば一番良いと考えています。給食センターは市の外れにあるほうだとは思いますが、市民の方が305円で定食を食べられるようになるというのが実現できれば一番良いと考えています。

しかしながら、現在のセンターは6,000食を作れる能力がありますが、児童生徒数が増えていることもあって、なかなか他のことに目をむけられない状況でございます。給食センターができた当初は、木更津市の人口は減っていくだろうという見込みでした。しかしアクアラインが開通し金田の開発が進み、区画整理を行い、人口は年々増加しています。このままいくと給食の配送面でセンターにも負荷がかかってくるので、人口が最も増加するここ4～5年が勝負です。このような状況がございますので、なかなか市民の方への給食提供までは難しい実情があります。しかしながら、理想としては、市民の方々に給食をいつでも食べにきてもらえる環境を整えていきたいと考えています。

(鈴木委員)

給食センターで作らなくてもよいので、同じものを食べられる施設があれば良いと思います。そうすれば保護者がいつでも食べに行けて、普段子どもはこのような給食を食べているのだと納得できると思います。

(事務局：岡田課長)

それについては私たちの課題である、そのように考えております。

また、補助金についても私のほうからご説明させていただきます。義務教育の一環でありますので、給食費を無償にすべきというお考えがあることも存じております。それとは対照的に学校給食法の中では給食食材費は受益者負担であり保護者の負担ということが法で定められております。しかしながら、食育の実施や子育て支援政策としては、妨げられるものではないという解釈もありますので、補助金を入れても違法ではありません。教育長が決算審査特別委員会という議会の中でも施策について触れましたが、給食へ補助金を導入した

り無償化にするというのは理想だけれども、教育という大きな枠組みの中ではもっと整理していかなければいけない部分がたくさんあるということです。施設の耐震化についてもそうですし、そのように順序立てていくと給食費にまで手が回らないのが現状です。給食食材費が6億円で運営していて、施設維持や人件費は7億円かかります。食材費の半分以上を市が負担しても年間3億円になりますので、毎年3億を支出するだけの余裕がありません。これが市の基本的な考え方となっております。

(鈴木委員)

それは、例えば値上げする20円分のみ補助するというのも難しいのでしょうか。

(事務局：岡田課長)

本市でも少子高齢化が進んできている部分がありますので、高齢者福祉のほうの予算が嵩んでいます。そのような状況で、給食費の部分は義務教育の一環ではありますが、受益者負担が謳われていますのでなかなか難しいかと思えます。

(白石副会長)

ありがとうございました。では渡邊会長お願いいたします。

(渡邊会長)

遅れて申し訳ありませんでした。

重複する部分があるかもしれませんが、給食は非常にバランスがとれた食べものです。子どもたちの発達段階に必要な栄養ですので、それを切り崩すことなく最低限確保するためには、やはり多少の値上げが必要だろうと思えます。

(白石副会長)

ありがとうございました。

では皆様、値上げ額は現段階では決められないということによろしいでしょうか。

〈異議なし〉

事務局としても、それによろしいでしょうか。

(事務局：岡田課長)

結構でございます。

(白石副会長)

それでは質疑終局と認めます。今回の意見を踏まえて事務局として再度金額を検討していただきたいと思えます。

### (3) 次回スケジュールについて

(白石副会長)

次に事務局より次回のスケジュールについて、ご説明をお願いします。

(岡田課長)

本日、第2回目の検討委員会にて貴重なご意見をいただきありがとうございました。これを踏まえ、7月21日の木曜日午後2時より、同じこの場所で第3回目の検討委員会を開催

し、答申案を取りまとめ、答申をいただきたいと考えております。委員の皆様にはお忙しいところ恐縮でございますが、よろしくお願いいたします。

なお、正式な案内通知は、後日送付します。

(白石副会長)

説明は終わりました。ご質疑があれば、お願いいたします。(異議なし)

それでは閉会いたします。本日はありがとうございました。

〈15：30分終了〉